

助成対象事業報告シート

団体名：錦二丁目まちづくり協議会

1 助成を受けて実施した事業

※ 団体が行った内容とコンサルタントが行った内容がわかるように記入してください。
また、事業の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

【事業の概要】 錦二丁目地区の約4割を占める公共空間を、賑わい創出をはじめ地域課題の解決に活用するための計画づくりを行いました。

【取組み内容】

- ・ワーキング会議による検討 (8/23、9/10、9/20 開催、主に事務局メンバー)
- ・9月27日 第1回計画検討会の開催
- ・ワーキング会議による検討 (11/13、12/3)
- ・12月20日 第2回計画検討会の開催
- ・ワーキング会議による検討 (11/13、12/3)
- ・1月28日 第3回計画検討会の開催
- ・1月29日 栄東まちづくり協議会ヒアリング
- ・ワーキング会議によるとりまとめ (2/25、3/6)



計画検討会の様子 (第1回)

都市施設の利用計画

9つのまちづくり事業メニュー

■賑わい創出事業

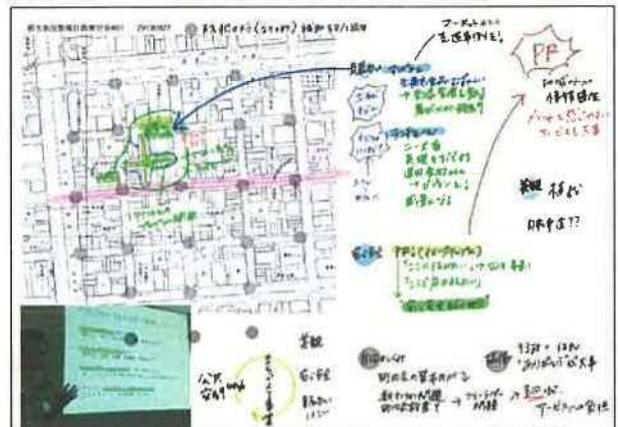
- ①ランチモール事業 (平日のランチタイムに空地や路上を使い飲食を中心とした賑わい空間を創出する)
- ②週末マルシェ事業 (土日等の週末に空地や路上を使った終日イベントを定期的で開催する)
- ③長者町キオスク事業 (まちの情報提供や雑貨販売などをする路上店舗を設置する)
- ④錦二丁目パークレット事業 (歩道を拡幅するにおしゃれな休憩所を設置)

■安心安全事業

- ⑤歩道拡幅、自転車レーンなど交通安全事業 (地区内の交通安全や上記にぎわい事業の展開に資する道路空間の再編を地区全体で取り組む)
- ⑥防犯カメラを活用した安心安全推進事業 (地区のイメージアップ、居住促進)

■まちの美観・エコ事業

- ⑦ゴミの共同処理事業 (飲食店をはじめとした事業ゴミの共同処理で歩道の美観を維持する)
- ⑧駐輪スペースの事業化
- ⑨まちなか広告の事業化 (工事仮囲い、街路灯、木質化ベンチ)



地域課題とまちづくり事業アイデアの検討



ランチモール事業の展開計画

助成対象事業報告シート

団体名： NPO 法人 久屋大通発展会

1 助成を受けて実施した事業

久屋大通発展会が当該地区においてエリアマネジメント活動を推進するにあたり課題となる事項を抽出し、必要な組織体制の考え方、まちづくりの方向性を検討した。

<組織のあり方>

- ・地域のまちづくり団体及び地域住民団体が連携して、まちづくりのイメージを創り上げていくことが必要である。
- ・役割を明確化し、会員（幹事メンバー）の負担の分散化を図り、持続性を担保する。
- ・民間事業者等のノウハウや資金力を活用し、まちづくりの実効性を担保する。

<まちづくりの方向性>

- ・任意組織として事業調整組織を作り、市や公園管理事業者と共に連携を図る。
- ・「求心力のある賑わいの街」に関する取り組み
- ・「ブランド価値の高い街」に関する取り組み
- ・「維持する仕組み・仕掛け」に関する取り組み

■365日、ENJOYする!!

新しい時代のLIFE STYLEを提案するサスティナブルシティをめざして

エリアマネジメントの方向性（テーマ）を実現するため、名古屋テレビ塔や久屋大通公園を核にしたエリアのエリア内外からの求心力を高めつつ、その一方でエリアの魅力を発信し、一年中老若男女が楽しむことができ、そこで都心生活を楽しむ多くの人々が自らの新しいライフスタイルを創造できる街へと昇華させていく。

<具体的な事業の検討>

- ・沿道店舗とメリットを共有する新たなオープンカフェの展開
- ・沿道店舗と久屋大通公園と連携した街全体で取り組むイベントの開催
- ・重点的取組を通じた、エリマネ活動の持続性と、久屋大通の一体感を醸成する仕組みづくりの関係者間協議



※ この様式は公開されます。

2 事業の成果および事業計画全体における今年度の達成度

久屋大通発展会エリアマネジメント構想

久屋エリアの賑わいをもたらすために事業の精査と他団体との話し合いを通じて、今後のまちづくりについての構想が完成した。

3 事業により見えた課題

具体的な取組内容を見直し、以下に示す取組内容の具体化、事業スキーム等を検討していく必要がある。

- ・ 歩道空間・公開空地を最大限に活用して街の賑わいを創出する。
- ・ 久屋大通公園と連携し、街が一体となったイベントを創出する。
- ・ 歩道上の花壇、プランター等によるアダプトガーデンの実施。

4 今後の事業等の展望

各種取り組み内容の具体化、事業スキーム等の検討を行い、公園のリニューアル後に行うイベントを通じて沿道への波及効果を検討する。

その上で、公園と沿道の一体感を目指す。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本工業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

助成対象活動報告シート

団体名： 平針南学区自治会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

■ まちづくり構想検討会 & おしゃべり場による検討

・構想検討会のみでの開催数3回、おしゃべり場(出店者の集まり)開催数1回、構想検討会とおしゃべり場の合同会議開催数3回



おしゃべり場の会議風景

■ 居場所づくり実験～ひだまりマーケット～予備調査の実施

・従来から開催している産直市場の開催時に、テント・机・いすを配置しておしゃべり場を設け(10/19)、アンケート調査を実施。カフェ開業への要望は高く、第2位(47人/277人中)であった。



予備調査

■ 先進事例調査及び減災まちづくりセミナー

・居場所事例として、ソーネ OZONE と知多市朝倉団地センタープレイスを視察し、自治会と民間公益活動との協働の必要性を痛感する。



・災害ボランティアによるセミナーを開催し(参加者56名)、学区全体より顔の見えるやすい街区単位での、減災の取り組みの有効性が指摘された。

■ ひだまりマーケットの広報活動

- ① 2種類の広報チラシの全戸配布
- ② 自治会ホームページにブログ開設
- ③ 天白フリモ天白版に掲載
- ④ SNS による配信



■ ひだまりマーケットの開催

- ・日 時：12月7日(土)10:00~14:00
- ・場 所：広場空間(シンボリックエリア)
- ・出店数：24店舗
- ・来場者：約800名
- ・最高気温 10°Cという厳しい条件下にもかかわらず、予想以上の来場者であった。



ひだまりマーケットの風景

■ まちづくり構想のブラッシュアップ

・平成30年度作成のまちづくり構想に、今回の居場所づくり実験で得られた成果を反映して構想修正版をまとめる。

2 活動の成果および目標達成度合い

■ 居場所づくり実験～ひだまりマーケット～の評価

・実験に対する来場者アンケート結果について、上位3位までを以下に示す。

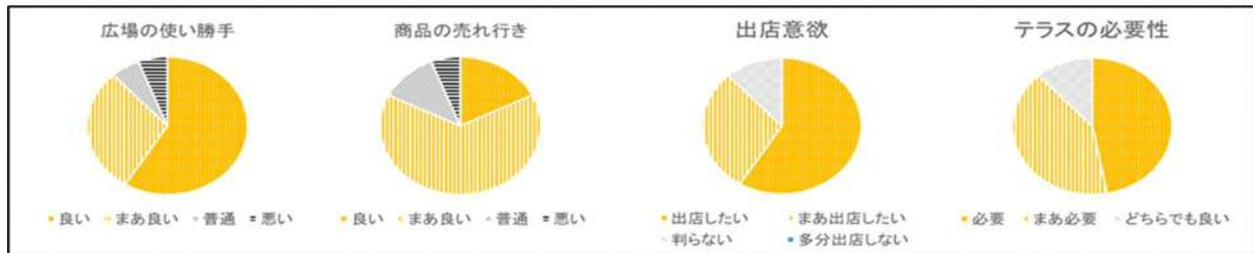
● 良かった点は？（回答総数270）

- ①気軽に来れる(21%)
- ②地域の手作り品がある(18%)
- ③新鮮野菜がある(16%)
- ③地域の人に会える(16%)

● もっと充実してほしい点は？（回答総数176）

- ①定期的に気軽に集まれる場所を！（25%）
- ②商品の種類を増やして！（22%）
- ③座れるところが欲しい！（13%）
- ③音楽イベントを！（13%）

・出店者(対象店舗18)のアンケート結果は以下の通りで、予想以上に大勢が来場したことから商品の売れ行きも良く、これが次の機会における高い出店意欲につながっている。



・ひだまりマーケットで観察された様々な活動シーンから、地域の居場所に求められる空間要件を整理すると・・・①気軽な立ち寄り空間 ②さり気ない見守り空間、③気楽な時間消費空間、④趣味の発信空間、⑤みんなの協働空間、となる。

■ まちづくり構想のブラッシュアップ

・居場所づくり実験成果の構想への反映はできたが、4で言及する大規模余剰地の出現という新たな課題が登場し、機能する構想の構築という当初の目論みは道半ばという状況。

3 活動により見えた課題

■ 居場所づくりに向けた継続的な取り組み

- ・地区に定着する居場所は、様々な取り組みの積み重ねで形成されていくもので、継続的に居場所づくりが取り組める体制を維持しておくことが重要。
- ・居場所を支えるインフラ～屋内的空間・電気供給・上下水サービス、バックヤードなど～をいつでも利用できる状況にしておくことが不可欠。
- ・土地利用の大きな状況変化が想定される場合、変化をあらかじめ組み込んだ居場所づくりに取り組むことが重要。(4と関連)

4 今後の活動等の展望

■ コミュニティ拠点の青写真の作成

- ・県営住宅の建て替えに伴い、シンボリックエリア直近に大規模余剰地の出現することが、今年度明らかとなり、改めてコミュニティ拠点のあり方明確にし、居場所づくりに取り組むことが必要。
- ・大規模余剰地の方向性については、現在の地区計画内容を評価するとともに、居場所づくりの具体化につながる地域発意の地区整備計画を検討し、関係機関と協議していくことが不可欠。

■ 地区の居場所づくり

- ・住民と自治会の展開能力（熱意、事業予算、マンパワー）に応じて、それぞれの場所の特質に対応した居場所づくりを展開していく。